

## ベラルーシ公開情報取りまとめ

(8月22日～8月28日)

2022年12月13日

在ベラルーシ大使館

### 【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領はウクライナ独立記念日に寄せた祝電を発出。ウクライナ側は激しく反発(8月24日)

### 【ルカシェンコ大統領動静】

#### ●ウクライナ独立記念日に寄せた祝電

(1)大統領は要旨以下を述べた

・現在の対立が、(ベラルーシ・ウクライナ)両国民の間の何世紀にも及ぶ誠実な善隣関係の基盤を打ち砕くことなどできない

・ベラルーシは今後とも、友好関係が維持され、あらゆるレベルにおいて友好的で相互に尊重し合う接触が進展することに賛成。

・ウクライナ国民に対し、平和な空、寛容、勇気、力、まっとうな生活の再建の成功を祈念。

(2)ウクライナ側の反応

・ポドリャク大統領補佐官は、「ルカシェンコの厚顔無恥は分かりやすく、誰の目にも明らか」と非難。

・ホンチャレンコ最高会議議員は自身の SNS 上で、「ルカシェンコは翌年のウクライナ独立記念日に処刑される」旨述べて非難。25日、ベラルーシ検察は同議員を刑事訴訟。

(8月24日、25日 大統領府、「ゼルカロ(鏡)」)

#### ●「ミンスク機械工場」訪問

大統領は記者団に対し、要旨以下を述べた。

・独露首脳会談の際にプーチン露大統領が、ベラルーシとウクライナの独立を否定しようとしていたとする、ショルツ独首相の最近の発言には注意を向けてもらえない。そのようなフェイクはもう聞き飽きている。重要なことは、我々の国家の主権と独立が確固たるものであるということ。

・ウクライナの人々とは良好な関係にある。ウクライナは隣国であり、ベラルーシ人とウクライナ人は同じスラヴ民族同士で、同一のルーツを持つ。

・ベラルーシは西側からの脅威に即座に対応する用意がある。ベラルーシとの関係緊迫化は、核兵器を持

つベラルーシ・ロシア連合国家との関係緊迫化。

・欧州の未来は我々やロシアとの共存しかない。米国はそれを阻止しようと奮闘。

(8月26日 国営ベルタ通信)

### 【内政】

●8月26日現在の政治犯の数は1,311人。

(8月26日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

### 【治安・軍事】

●フレニン国防大臣は、上海協力機構(SCO)国防大臣会合に出席(於:タシケント)

シン・インド国防大臣との二国間会談も実施。

(8月23日、24日 国防省)

#### ●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(8月22日～28日)

・リトアニア国境警備局は587人を阻止。

・ラトビア国境警備隊は46人を阻止。

・ポーランド国境警備隊は194人を阻止。

(8月22日～29日 BPN)

### 【抗議勢力の動き】

#### ●ロシアの反体制活動家マルク・フェイギン弁護士のインタビュー

インタビューは要旨以下のとおり。

・ルカシェンコは、他者を犠牲にしてでも自らは生き延びるという人物。仮にプーチンがウクライナ侵略戦争に敗れて窮地に追い込まれる場合、プーチンを処罰しようと真っ先に言い出すのはルカシェンコ。

・ルカシェンコは、ベラルーシが旧ソ連の集団農場のような体制を維持して自らがそのトップに収まり、諸外国からの口出しや面倒に巻き込まれたりせず、ただ金

だけがもらえる、それだけを望んでおり、旧ソ連全土を支配しようなどとは考えていない。

・ロシアのウクライナに対する侵略戦争において、ベラルーシは共同侵略者。ただし、ベラルーシが共同侵略者になったのは自国の意思としてではなく、ルカシェンコの決定によるもの。

・(ベラルーシ人に対し)意思なく生きることは悪い。プーチンらに良いようにされている現状を変えようとする意思がないのであれば、ベラルーシは丸ごと滅びてしまう。自らの手許にあるものを危険に晒してでも、現在のベラルーシのような危険な状況に置かれないようにしなければならない。

・チハノフスカヤはリベラルな側面や素晴らしい資質の持ち主で、平時なら良い大統領になれたであろう。しかし戦時には彼女のような資質は必要とされておらず、むしろ厳しい決断を下すことが求められる。彼女がそのようにできるか疑問。

(8月26日「ゼルカロ(鏡)」)

## 【その他】

### ●林業省は、全国的に森林への立ち入りを禁止

・ヴィテプスク州ブラスラフ地区では立ち入り可、ゴメリ州レリチツィ地区及び同州ジトコヴィチ地区では制限つきで立ち入り可。

・禁止の理由は、高温のためとされている。

(8月25日 非常事態省)

(了)